

～もっと障がいについて理解を深めるために～  
第6回ともに暮らす地域交流会

聴こえないことを体験し、語ろう、学ぼう！

記録集（要約版）



平成 27 年 3 月 15 日（日）  
於：志津コミュニティセンター

主催：ともに暮らす地域交流会 実行委員会  
佐倉市障がい者団体等連絡会  
佐倉市ボランティア連絡協議会（V連）  
後援：佐倉市・佐倉市社会福祉協議会

## 目 次

1. 次 第 .....	1
2. 発表団体・協力団体・主催者団体の紹介 .....	2
3. 第1部 発表の記録 .....	3
4. 体験学習 .....	5
5. 第2部 グループ意見交換会の記録 .....	6
6. アンケート結果 .....	9

## 1. 次 第

日 時；平成 27 年 3 月 15 日（日）午後 1 時～午後 5 時  
場 所；志津コミュニティセンター

～もっと障がいについて理解を深めるために～

## 第 6 回ともに暮らす地域交流会

佐倉市障がい者団体等連絡会と佐倉市ボランティア連絡協議会（V 連）は、これまで地域交流会を開催してきました。この『ともに暮らす地域交流会』を通じて障がいのある人もない人も、ともに暮らしやすい社会を目指しています。

第 1 部で、聴覚障がいのある方の暮らし方や日常の困りごとなどの発表と聴覚障がいに関連した体験学習を行います。第 2 部ではいくつかのグループにわかれて話し合いを行います。この場がともに理解を深める交流の場になれば幸いです。

**聴こえないことを体験し、語ろう、学ぼう！**

### 次 第

- 開会
- 主催者開会の挨拶（佐倉市障がい者団体等連絡会副会長）
- 後援者の挨拶（佐倉市福祉部障害福祉課課長）

#### 第 1 部（1 時 10 分～2 時 50 分）

- \* 体験学習・・・手話付きの音の出ないテレビニュースを見る  
手話の利点の確認や簡単な手話の練習など
- \* 聴覚障がいのある方の暮らし方や日常の困りごとなどの発表  
佐倉市ろう者協会

休憩・各部屋に移動（2 時 40 分～2 時 50 分）

#### 第 2 部（2 時 50 分～4 時 55 分）

- \* 分科会 グループに分かれて話し合い
- \* 全体会 グループ発表・全体のまとめ

- 後援者の挨拶（佐倉市社会福祉協議会会長）
- 主催者閉会挨拶（佐倉市ボランティア連絡協議会会長）

主催：ともに暮らす地域交流会 実行委員会  
佐倉市障がい者団体等連絡会  
佐倉市ボランティア連絡協議会（V 連）

後援：佐倉市  
佐倉市社会福祉協議会



## 2. 発表団体・協力団体・主催者団体の紹介



### 発表団体

#### 佐倉市ろう者協会

佐倉市で、会員の親睦を図り、教養を高める活動をしている、ろう者の団体です。  
手話サークル「希望」、手話サークル コアラの会とともに助け合い、行事などを通じて交流を深めています。手話講座にも参加しています。

### 協力団体

#### 手話サークル「希望（のぞみ）」

手話サークル「希望」（のぞみ）は、結成 23 年目になります。会員は 49 名で、ろう者を中心に交流をしています。

主な活動は、毎週木曜日 10 時～12 時の学習交流会です（西部地域福祉センター）。他に、ボランティアや街頭募金、講演会、地域グループとの交流やレクリエーションを行い、佐倉市地域に溶け込む活動をしています。

#### 手話サークル コアラの会

手話サークル コアラの会は、会員 13 名で、平成 15 年 7 月より活動をしています。

聴覚障がい者と健聴者が交流しながら、お互いに理解を深め合い、聴覚障がい者が日常生活の中でいろいろ困っていることを一緒に考え、一緒に解決し、もっと暮らしやすい地域社会にしていくことを目的として活動しています。

主な活動は、手話を勉強し、ろう者とお話しを通して交流をしています。定例会は毎週金曜日の 19 時から、アットホームな雰囲気です。

### 主催者団

#### 佐倉市障がい者団体等連絡会

佐倉市内で活動している障がい者団体が、種別を超えて連携していくために、平成 19 年 6 月 17 日に結成されました。

現在、佐倉市手をつなぐ育成会、佐倉市身体障がい者の会、佐倉市ろう者協会、佐倉市精神障害者家族会かぶらぎ会、印旛地区自閉症協会佐倉支部、さくらクローバーの会、NPO 法人木ようの家、佐倉地域精神障害者支援会 S S S つばき会、手をつなぐ・さくら（支援団体）の 9 団体で活動しています。

#### 佐倉市ボランティア連絡協議会＝V連

佐倉市内で、ボランティア活動を行っている団体と個人で構成されています。

運営委員会や懇談会、ボランティアのつどい等の行事を通して、ボランティア同士の交流や情報交換・協力し合うことができます。1つのグループ、1人のボランティアではできないことも、他のボランティアと連携することで、今までとは違う活動が可能になります。

力を合わせることで、住みやすい地域になることを願いながら、V連は活動しています。

### 3. 第1部 発表の記録

#### 『聴覚障がいのある方の暮らし方や日常の困りごとなどの発表』 佐倉市ろう者協会

これから、耳が聴こえないとはどういうことかのお話をします。

私は島根の出身です。6人兄弟の末っ子で、耳が聞こえずに育ちました。親に聞いても聞こえない原因は「わからない」でした。昭和18年3月生まれ、戦時中「産めよ、増やせよ」でそんな中で育ちました。

近くに小学校がありました。そこではなく電車と徒歩で松江ろう学校に通いました。そこに12年間通いました。当時は口話の時代でした。学校に行くときみんなが手話で話しかけてきます。最初はびっくりです。その中で自然に手話を覚えました。学校では手話でコミュニケーションが取れましたが、家では手話できません。

しかし、「手話はだめ、口話で」との時代でした。ものすごく厳しい時代でした。ろう学校では、健常者の世界では手話は通じないからと口話を教えられました。口話は難しい。耳が聞こえないので自分の声をフィードバックできないこともあり、間違いやすい。普通の人と話す時に、「口話で」と言われていたがわからない。わかったふりして、「うんうんうん」とやっていました。

5年生から木工の授業が始まりました。その先生は、手話で教えてくれました。技術をみがき小中高12年間勉強しました。ろう学校は、県に一つ、遠くの生徒は寄宿舎に入りました。先生は口話です。ロパクパクやってもわかりません。

卒業後、東京のリハビリセンターでは、手話で学びました。「へえー、手話でやる」、びっくりしました。それから会社に入りましたが、ろう者は私だけ。コミュニケーションに困りました。苦労しました。紙に書いてずーっとやりとりしていました。家族とのコミュニケーションも困りました。例えば、「親が倒れた」、「財産を分割する」とかいろいろあるが、周りで話していてもわからない。「わからないなら、そっちに行つて」と言われました。疎外感がありました。

コミュニケーションもなく、まじめに働きました。でも、家と職場だけ。残業も帰りの一杯もありませんでした。職場で最後に送別会をやっていただきました。嬉しいのだけど通訳もいないし。でも、「最後だけは」と思い通訳に来ていただきました。そしたら、そこでいろいろな話ができ、とても良かった。そのことをよく覚えています。とても大事なことですよね。

家族の法事でも、私は何もわからない。大勢の中で一人ぼっち。田舎でも通訳がつけられるようになり、法事でお坊さんや親戚と話せるようになりました。でも、お経の通訳は難しいらしいのですが。

今は、少しずつ環境が変わりました。昔に比べ夢のように環境が変わってきています。通訳を頼めます。病院でも、以前は受付の人の顔をずーっと見ていました。見ていないと呼ばれてもわからないからです。店でも何を言っているかわからないので、何個いるかなどの時にもわざわざ店の人に来てもらって、品物を指さし、直接やりとりをする必要がありました。

3.11の地震の時、三田で会議中でした。すごく揺れました。初めて体験しました。手話通訳者に「仙台で地震」と教わりました。会議は中止になり、それぞれ帰りました。電車は完全に止まっていました。家までひたすら歩いて、12時間かかりました。コンビニでも何も売っていません。タクシーはすべて乗車拒否状態でした。

2つ目は、大雨で電車が止まった時です。八千代台で振替バスもあったらしいので

すが、それもわからず歩きました。八千代台から3時間、情報がわからないまま、歩いて帰りました。

口話についてお話しします。入学したら、まず口話で50音を習います。ゆっくり あい う え お と教えられ、練習しました。例えば、「は」は、息で紙が動くのを何回も体験して覚えました。島根のろう学校では、手話はだめと厳しく言われました。

音を聞いても、言葉を発音できない。私は、補聴器はだめ。音がはっきりしない。でも、運転のためには補聴器を車内に置いています。免許証が補聴器限定となっていますので。

仙台の聞こえない人が仕事のため、移動手段のためバイクを使っていました。免許がなくて、警察に捕まり裁判で負けました。弁護士に相談し署名運動をしました。聞こえる人も音楽が大きな音でかかっていたら、パトカーの音などが聞こえないことと同じことです。今では、条件付きで教習所に通って免許を取得できます。府中で免許を取りました。なつかしい思い出ですね。認めて貰うために署名運動をして勝ち取りました。35年頃の話です。

憲法に11条があります。かつては、障害者はお金を借りられなかった。聴覚障がい者は準禁治産者とされていました。これも運動をして改正されました。今では、ローンも組めて、家も建てられます。

私は耳が聞こえませんが、聞こえるようには絶対になりません。このまま人生を終わることになりますが、でも、目は見えます。目を大事にしたい。

以上

## 質問

Q：外見で聴覚障がいとわかるような目印はありますか？白杖のような。

A：外見ではわからない。後ろから声をかけられても振り向けない。名札を付けるわけにもいかない。目印を付けるのは、抵抗がある。聴覚障がい者は、見えにくい障害のため、大変とも言われています。

Q：大学の手話サークルで手話を学んでいます。ろう者から見て手話を学んでいる人はどう見えますか？

A：手話を学んでくれるのはとてもうれしい。コミュニケーションがとれる。聴覚障がい者が手話を教え、健常者が情報を教える。そのようになるのはうれしい。

Q：視覚障がい者としてお願いがあります。急に手を引っ張ったりしないで、肩をチョンチョンとたたいて欲しい。

A：はい、やさしくトントンとします。ありがとう。

Q：ろう者の方は、どう声をかけられたいですか？

A：顔をみて声をかけて欲しい。後ろからは、軽く肩をたたいて欲しい。

Q：若い頃、手話がわからなかった。お客が「しゃべれないの」と動作でやってくれたのでメニューを出すことができた。レストランでどうしたらよいですか？

A：聴覚障がい者が客としてきたら、メニューを指さす。筆談してくれる人もいる。聞こえない人は、準備をしている。とにかく正しい手話も大事だが、はじめはわからない。コミュニケーションを図りながら少しずつ少しずつ手話を広げていくのがよい。私が努力しているのは、口を大きく開けてはっきりしゃべる。表情を豊かにする。手や体を使って表す。これでコミュニケーションがとれます。参考にしてください。

## 4. 体験学習

当日、会場に手話通訳と要約筆記をお願いしました。聴覚障がいも様々であること、手話通訳と要約筆記の意味（意義）を説明し、このコーナーをスタートしました。

“手話サークル「希望（のぞみ）」”と“手話サークル コアラの会”の協力のもとに行いました。このコーナーの最後に、協力団体の活動の自己紹介をしました。

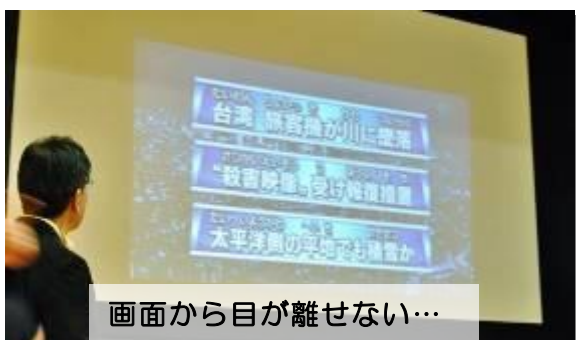


### （1）手話付きのテレビをみる

参加者全員で、音声を消した手話付き（字幕付き）のテレビニュースを見ました。そのテレビニュースを見ての感想を数人にインタビューしました。

#### 【手話付きのテレビをみての感想】

- ・字幕がとても頼りなのだが、もしなかったら映像以外何もわからない。
- ・手話をすこし勉強していても、字幕ばかり見てしまう。
- ・耳からの情報がないと、画面から目が離せなくて大変なんだと思った。



### （2）会場内で少し離れて手話による会話

雑踏をイメージした中で、会場内の離れた場所で手話のデモンストレーションを行いました。会話は「1時半からは、2階の会議室に会場が変わります。お間違いの無いようにお集まりください。」です。

手話は、少し離れていても雑音があっても会話ができます。距離のイメージは、電車の線路を挟んでの隣のホームとの会話です。普通の会話ではできにくいことを手話では会話ができる（利点がある）ことを知ってもらう体験です。

### (3) 聴覚障がいの方に道やまちであった時の手話の学習

知り合いの聴覚障がいの方に道やまちであったら挨拶しましょう。

その際の手話の「おはようございます」「こんにちは」「ありがとう」を協力団体と聴覚障がいの方にわかりやすく教わりました。協力者への「拍手」も手話でできるようになりました。

※まず、声をかけることが大切。勇気を持って。間違ってもいい。伝えようとすることが大事。身振り・手ぶりも含めて。聴覚障がいの方の視界に入り、手話以前に声をかけることが第1歩

### (4) 突発的なことが起こったら

ここでは、急に電車が止まった時の対応策をろう者協会の方に教えていただきました。聴覚障がいの方はアナウンスが聞こえません。周りの人は何が起こったかを知っていて、自分だけ知らないのではという不安があります。健常者も実は知らない、わからないということを伝えることも大事です。

聴覚障がいの方は、情報が無いが周りの人の様子、流れをみて、自分の行動を決めているとのことでした。私たちは、聴覚障がいの方が困っていることがわかたらメモで教えてあげることができます。いつも、ポケットやカバンにメモがあると良いでしょう。

## 5. 第2部 グループ意見交換会の記録

当日の参加者は84人でした。参加者の内訳は、佐倉市ろう者協会4人、協力団体（手話サークル「希望」、手話サークル コアラの会）17人、その他の障がい者団体等18人、V連・ボランティア13人、市、市社協・地区社協・民児協19人、学生5人、その他3人、千葉県聴覚障害者手話通訳2名・要約筆記3名です（内訳は、主催者による分類）。

第2部では、5グループに分かれて意見交換をしました。その後、全員で集まり、各グループの意見を発表しました。発表者は、各グループとも偶然にも東京成徳大学手話サークルから参加した学生になりました。ありがとうございました。

グループに分かれての意見交換の内容は、主に①参加者の自己紹介、②第1部の発表への感想、③体験学習の感想、④ろう者の方への質問などです。

各グループでは、手話サークルの協力団体と東京成徳大学手話サークルの学生、手話通訳者の協力のもと、意見交換を行いました。また、聴覚障がい者との会話であることから、以下のような「今日の分科会のお話の約束ごと」を共有して行いました。

#### \* 今日の分科会のお話の約束ごと

- 名前を名乗ってから話してください。
- 一人が話し終わるまで、次の方は話さないでください。
- 原則として、順に話していただきます。





グループに分かれて意見交換



各意見を持ち寄って発表

### ◎グループ意見交換での主な意見

#### 《地区社協の方の意見・感想》

- ・認知症サポーターのようにサポーター側が分かる方法があれば良いのでは。手話ができるとかろう者が困ったときに私が手伝いますというサインとして、リングやバッジなど。

#### 《学生さんの意見・感想》

- ・昔のろう者の暮らしが今日は良くわかった。
- ・手話が分からなくても話しかけることが大事。気持ちに寄り添うことが大事。ろう者は、見ただけでは分からない。手話をたくさんの人が覚えてくれたら良いと思う。ボールペンとメモは常に用意しておこう。
- ・辛い話なのに明るくてすごいと思った。

#### 《本日の協力団体の手話サークルの方の意見・感想》

- ・一人ひとりの力は小さいけれど、サークルとしてできることをやっていく。
- ・佐倉市では災害時にFAXで知らせてもらうという登録制がある。電話で救急車が呼べない時とか、災害の被害を知らせてくれるなどができる。登録しておくとうい。

#### 《その他の参加者の意見・感想》

- ・私たちはたまたま健常だが、数の逆転でろうの方が多かったら、私たちの方が困る。以前、ろう者の方たちと旅行に行ったときに自分だけが手話がわからず、ひとりできみしかった。
- ・小さいころから障がいについて学ぶ機会があるとよい
- ・ろう者の方のお宅ではチャイムの代わりに明かりで知らせる方法があった。
- ・「分からない」「気がつかない」ことがわかった。これからは気がついたのだから、ろう者が困っていたら助けられる人になりたい。
- ・日ごろの付き合いが大事。
- ・手話だけではだめで、字幕も必要なんだということがわかった。補い合う関係なんだということが良く分かった。
- ・まずは目と目をあわせて、それから話す。そうでないと「自分に話しかけられているのがわからない」ということが分かった。

## 【各グループからの発表】

### 【Aグループ】

- ・人前で、自分の障がいを話すのは難しい。でも、地域の人にわかってもらうには、伝えていかなくてはならないと思った。
- ・私たちは、たまたま健常だが、逆転するという発想もある。
- ・手話ニュースの記事のスピードが速く、読み取れなかった。
- ・手話にもいろいろあるなと思った。
- ・ろう者の方は、ろう者の方が来たことがわかるのでしょうか。
- ・小中学校の授業に行ったとき、小さい頃から学んだ方がよいと思った。

### 【Bグループ】

- ・発表からの感想  
話しかけることが大切／見た目では、ろう者とはわからないので、手話を覚えておく／ボールペン、メモを用意しておく／気持ちに寄り添うことが大切。
- ・お店で、ろう者に対する接客がまだまだ。「手話ができる」というアピールも必要。

### 【Cグループ】

- ・辛い話を明るく話すことはすごい。
- ・災害時、情報を伝える手段として、例えば駅であれば駅員さんの背中のYシャツに情報を書いて見てわかるようにする。汚れるから嫌だと抵抗されたら、「人の命がかかっている」と有無を言わせない。
- ・何か一つでも通じることが大切。
- ・手話を学ぶきっかけとなれば良い。
- ・手話ニュースを見ていて、字幕と手話、両方出ているとどちらかに偏る。
- ・人に話しかける、手話に興味を持つ。

### 【Dグループ】

- ・簡単な手話を教えてもらえた。
- ・ベイシアの社員教育で、手話を習った。少し通用してうれしかった。
- ・発表を聞いての感想  
辛い思いをしても、明るく生活していてすごい。  
ラジコン、ゲートボール、演劇が得意と聞いた。表情が豊かな方。
- ・手話言語法を佐倉市に提出して、認められたところ。

### 【Eグループ】

- ・手話は、外国語の通訳というイメージが強かったが、身近に感じた。
- ・実際の会話の速度が理解できた。
- ・地域でのろう者のコミュニケーションがない。普段から連絡が取れない。
- ・(ろう者の方の経験) 以前に高速道路で車が止まってしまったことがある。緊急電話で話ができることができないので、ひたすら歩いて料金所まで行った。  
親が倒れた時に、119番してもうまく連絡ができない。隣の家まで行ってインターホンを鳴らし、連絡してもらった。救急の人にいろいろ聞かれたが良くわからなかった。亡くなってしまったが一人っ子なので途方に暮れた。その後、地域の方にも障がいがあることを開示した。

## 6. アンケート結果

回収枚数 23 枚

『第 1 部の聴覚障がいのある方の発表はいかがでしたか？』

1. 良くわかった	20 人
2. まあまあわかった	2 人
3. あまりわからなかった	1 人
4. わからなかった	0 人

『体験学習（手話のはたす役割について）はいかがでしたか？』

1. 良くわかった	20 人
2. まあまあわかった	3 人
3. あまりわからなかった	0 人
4. わからなかった	0 人

『第 2 部のグループに分かれての意見交換で自分の考えを発言できましたか？』

1. ほぼできた	22 人
2. あまりできなかつた	1 人

『今回の交流会に対しのご感想・ご意見や今後の企画等についてお聞かせください。』

- ・ろう者の気持ちが良くわかった。
- ・本日参加でき、いろんなことを学ぶことができて良かった。
- ・初めて参加し、ますます交流会の必要性を感じた。
- ・ろう者の方のお話、とても勉強になりました。
- ・どんな障がいでも生きることの辛さは同じで、健常者の補助や公的な色々な制度の必要性を感じた。
- ・ろう者の苦勞（幼児から小・中のろう学校）と大変だったことを話していただいた。手話もいろいろあるとのこと、「こんにちは」と「ありがとう」しか覚えられなかった。
- ・Bグループではろう者の方が欠席なだったので、ろう者への質問ができなかったのが残念だった。「聴こえない」立場の方への理解が進んだ一日でした。もっと多くの人に参加して欲しいと思いました。
- ・大学の手話サークルに所属しています。大学にはろう者が3人います。ろうの文化、ろう者が感じることを教えてもらうこともあるのですが、この3人以外の人から聞くことはほとんどないので、勉強になりました。



ありがとう

～もっと障がいについて理解を深めるために～

第6回ともに暮らす地域交流会

聴こえないことを体験し、語ろう、学ぼう！

記録集（要約版）

平成27年3月

発行 ともに暮らす地域交流会 実行委員会  
佐倉市障がい者団体等連絡会  
佐倉市ボランティア連絡協議会（V連）  
佐倉市社会福祉協議会